

振興会 だより

令和7年11月27日発行
編集・発行 振興会
羽田地区センター
羽田地区

第39回羽田躍進まつり

地区センター・久保公園で開催

11月3日(月・祝)に、振興会が主催した第39回羽田躍進まつりが開催されました。雨が心配されましたが、10時頃から何とか曇り空になりました。イベントは予定通り実施されました。来場者も五百人を超え、且つ、家族連れの来場者が目立ちました。

今回は、久保公園では、キッチンカー、バールン遊具(滑り台、トランポリン)を、地区センターでは、ステージ発表に羽田小学校第4学年児童20名による鑄物太鼓、さらに、ビンゴ大会(景品付き)を、それぞれ新たな企画としたことが、来場者の増加につながったと考えております。

子供会育成会連合会の皆さん、羽田小学校の先生方には、祝日にも関わらず、大変ご足労をおかけしました。衷心より感謝申し上げます。

会場を、地区

センター、久保

公園の2会場と

したことで、ス

ムーズな移動に

は困難を極めた

ことと察せられ

ます。加えて、

久保公園での案

内放送も無く、

戸惑いを覚えた

方が少なからず

いたことと思わ

れます。ご不便をおかけしました。

このことは、次年度に課題として残

されました。

鉄器まつり



と並んで、躍

進まつりが、

羽田地区の2

大まつりと位

置づけられる

ことに鑑み、

地区民の皆さ

んからのご意

見を取り入れ

て、よりよい

ものにしていこうと考えています。

なお、開催に当たり、志の有る方

々によるセンター敷地内、久保公園

周辺の環境整備には、心洗われる感

を禁じ得ないものがありました。

「地区要望」全11項目「市から回答」

6月18日(水)に市へ提出した「地区要望」は、7月29日(火)の意見交換会を経て10月22日(水)に全11項目について市から回答がありました。

以下、評価と項目名を列挙します。

- 1 A 市立久保公園の樹木伐採
- 2 D 空き家の強制代執行での撤去
- 3 C 旧県道14号の道路の嵩上げ
- 4 B 地区センター前駐車場の舗装
- 5 D 黒田助・外浦線の道路わきの水路のグレーチング蓋の設置
- 6 B 観光資源活用による活性化
- 7 C 芦ヶ沢水路の改修工事
- 8 B 未来羅針盤図に併せた羽田の振興策

- 9 C 窪田排水路の改良工事
 - 10 C 市道33045の簡易舗装
 - 11 E 小田代川底の土砂撤去
- 結果として、1の久保公園の樹木伐採は、メタセコイア7本の伐採に向けて、8年度以降順次取り組むというコメントを得ております。
- また、4の地区センター前駐車場の舗装は、11月20日(木)に砂利を敷いております。樹木伐採は8年度以降行うという回答を得ております。
- さらに、11の小田代川底の土砂撤去は、岩手県南広域振興局土木部長に要望したということで、県に移管されることになりました。

令和3年度33歳厄年連

「巳雄神」から寄付

先月、羽田地区の令和3年度33歳厄年連「巳雄神」の方から、羽田火防祭のために貯めておいたお金を羽田地区振興会に寄付したい旨の連絡がありました。これは、羽田火防祭が無くなったことによるものです。

羽田地区のために使ってほしいとの意向を受けて、振興会として趣旨を理解したうえで、寄付を受けることとしました。金額は五十万円です。

10月27日(月)に、指定した振興会の口座に入金を確認しました。

11月7日(金)に、「巳雄神」の代表3名が、あいさつと寄付(受領)証明書を受け取りにセンターを訪れました。

なお、寄付金の使途は、8年度以降に考えます。



スリム化と重点化図る 沢

羽田 第3次コミュニティ計画策定 水

水沢の羽田地区振興会(小野寺茂美会長)は、同地区の「第3次コミュニティ計画」(2026-35年度)を策定した。将来目標「自然と文化・伝統の息づく緑豊かなふれあいのまち羽田」は前計画から踏襲。目標達成に向けた「6視点」もほとんど変えていないが、人口減少や生活スタイルが変化している現状を踏まえ、内容のスリム化と取り組みの重点化を図った。

水沢地域東部の同地区は、伝統的な鑄物産地として知られ、JR東北新幹線水沢江刺駅や奥州市総合体育館(2アリーナ)など、奥州市外から訪れる人たちが利用する施設が多い。一方、洪水や土砂災害の不安を常に抱えているほか、羽田町中心部では商店や飲食

食店が大幅に減少している。3次計画策定を前に実施した地区住民アンケートでは、13%が「住みよい」と答えたのに対し、21%が「住みにくい」と回答。同地区センターの佐藤庄治郎センター長(72)は「2次計画策定時のアンケートと比べ『住みにくい』に答えた人が100人ぐらいい増え、割合も逆転した。特に高齢者ほど住みにくさを感じており、地元の店がないことや公共交通の不便さが背景にあるようだ」と語る。

住みよい羽田地区を目指す基本姿勢は変わらないものの、人口減少や生活スタイル

イルの変化を無視した地域づくりは現実的ではないとし、3次計画の策定作業を推進した。特に力を入れて取り組む事柄については、振興会内の4部会各一点と絞り込んだ。建設防災部会は防災グッズの購入と確保、農林保健部会は軽運動推進による健康維持、商工観光は市と連携した「水沢江刺駅周辺エリアプロジェクト」の推進、文教福祉部会は若者を交えた世代間交流事業の展開を掲げた。

将来目標を達成する上で設けた「6つの視点」のうち、前計画で「あいさつ運動と結の心によるまちづくり」としていた項目は、「あいさつをとおして心かよわせるまちづくり」に変更。人口減やライフスタイルが多様化している社会の流れに合わせた表現に

した。3次計画の内容をまとめた冊子は、このほど、地区内に全戸配布した。同振興会の小野寺会長(76)は「人や予算が減っている中、欲張ってばかりもいられない。自分たちでやることをやっていきたい」と話す。

まちづくりの主人公は、皆さん一人ひとりです！

羽田地区振興会

第20回奥州市社会福祉大会で、「地域福祉活動が特に優秀な地域」として表彰された。4年に1度の羽田自主防災訓練が評価された！



に恵まれ、約3時間ほどをかけて、羽田のまちをゆっくり歩きました。コースは、地区センターより、八雲神社↓北上夜曲歌碑↓新小谷木橋往復↓北鵜ノ木橋↓花林院を巡り、地区センターに戻るもので、小林正章さんから詳細な説明が随所にあたり羽田のまちを知る格好の機会となったことは言うまでもありません。



第16回ウォーキング講座 好天の下、羽田のまちを巡る

羽田地区振興会農林保健部会(部会長 菊池富明)は、11月8日(土)に、第16回ウォーキング講座を開催しました。絶好のウォーク日和



第3次コミュニティ計画の冊子をする小野寺茂美会長(左)と佐藤庄治郎センター長

「コミュニティとは、地域社会共同体のことを言います。コミュニティを支援する原動力は、地域社会に互いに住む人たちが、お互いに声を掛け合えることではないでしょうか？」

羽田小第5学年児童 お米パーティー開催

11月11日(火)羽田小学校第5学年児童の皆さんによるお米パーティーが小学校体育館で開催されました。無農薬による有機栽培で生産、収穫したヒトメボレのおにぎりを、みそ汁と一緒に味わいました。何といっても、新米は粘

りがあり食感も抜群で、おにぎりはどどん胃の中に入っていくました。食事が終わった後、児童の皆さんから、田植え、稲刈り、脱穀体験で学んだことを、劇やパソコンを使いクイズにして発表がありました。最後に、児童の皆さんが書いた稲作体験活動の感想文をまとめた冊子をいただいたて、散会となりました。